

	するスポーツ	みるスポーツ	支えるスポーツ
I 市民スポーツの現状と課題			
現状	- 市民のスポーツ実施率が高まり（週1回以上が10年前の36.1%→48.4%）、散歩やウォーキングなど軽い運動を中心に、まち全体でスポーツに親しんでいます。 - 約30%の人が月に1日以上スポーツをしていない（できない）、あるいは全くしていない（できない）状況にあります。 - スポーツ施設の現状としては、多様な市民ニーズに応じた施設が不足し、老朽化も進んでいます。	- 平成13年から10年間で京都市の地域密着型プロスポーツが3チーム（日本プロサッカーリーグ「京都サンガF.C.」、日本プロバスケットボールリーグ「京都ハンナリーズ」、日本女子プロ野球リーグ「京都アストドリームス」）に増え、観戦をはじめ市民がトップレベルのスポーツに身近に触れる機会が増加しています。 - プロスポーツの試合環境・観戦環境は、市内企業による支援が進んでいる一方、施設・設備面ともに十分ではない状況にあります。	- 運営ボランティアの参加者は、3.1%、今後のボランティア参加希望は約20%です。 - 本市のスポーツは、体育振興会や体育協会などの活動によって支えられています。一方で、活動の場の不足、人材の固定化や高齢化、情報発信力の不足など新たな課題を克服するには大きな壁に直面しています。
課題	- 身近な場所の環境整備や気軽に参加できるプログラムづくりを進めるとともに、効果的な情報提供サービスの方法について検討する必要があります。 - 既存施設の配置や機能の見直し、府市協議の促進も視野に入れ、市民がスポーツに親しむことのできる施設整備を進める必要があります。	市民がプロスポーツを支えているという意識をさらに高めるため、プロスポーツチームと地域との交流を促進する必要があります。また、国際的・全国的な規模の競技大会の誘致を前提とした施設・設備の充実が求められ、京都府との協議や民間企業とのさらなるパートナーシップの推進も求められています。	- スポーツを支える活動への参加促進に向けた取組をする必要があります。 - 各関係団体が抱える課題の解決及び活動基盤の強化に向けて、情報の共有や人的交流の活性化など連携のためのしくみをつくる必要があります。
10年後の姿と目標（数値）	それぞれの年齢や個性、環境に応じてスポーツを楽しんでいる 週1回以上運動やスポーツをする市民の割合 現状値*48.4% ↓ 65%以上 ▲市民スポーツフェスティバル *現状値は、平成22年度市民アンケート調査の数値	トップレベルのスポーツに身近に触れられている 市内でプロスポーツやトップスポーツを直接観戦した市民の割合 現状値24.4% ↓ 30%以上 ▲「京都スポーツの殿堂」に第1回設立入りされた朝原宣治氏による伝道事業	多様なスポーツ活動を支え合い、ひとつひとつがつながっている スポーツ活動にボランティアとして参加した市民の割合 現状値3.1% （運営ボランティアとしての参加に限定した割合） ↓ 10%以上 ▲体育指導委員会を対象とした福利啓蒙会
II 主要な施策			
ハードウェア	施設の効率的・効率的な整備 - アセットマネジメント（施設の効率的な管理・改修をし、施設の延命と有効活用を図ること）の推進 - 環境にやさしい効率的な設備の推進 - ひとにやさしい施設の改修・整備 - 地域体育館の充実 - 郊外運動公園の整備 - 身近なスポーツ環境の整備 - 市民に身近な施設の利用促進	競技環境と観戦環境の充実 - 国際的・全国的規模のスポーツイベントに対応した施設の充実 - 国際的・全国的規模のスポーツイベントに対応したバックアップ機能の充実 - 環境にやさしい効率的な設備の推進（再掲） - ひとにやさしい施設の改修・整備（再掲）	だれもが利用しやすい施設の提供 - 市民に身近な施設の利用促進（再掲） - ひとにやさしい施設の改修・整備（再掲） - ボランティア活動拠点の確保
ソフトウェア	スポーツをみずから楽しむ機会の提供 - 施設の柔軟な管理運営及び良質なサービスの提供 - 気軽に体を動かすための場の設定 - スポーツの仲間づくりへの支援 - スポーツを楽しむためのプログラムの提供 - ニュースポーツの普及・振興の取組の強化 - アダプテッド（障害のある市民などが参加しやすい）スポーツの普及・充実	総合スポーツイベントなどの開催 「京都マラソン」の開催 - 地域密着型プロスポーツチームの振興 - 国際的・全国的規模のスポーツイベントの誘致促進	スポーツを支えるしくみづくり - 施設の柔軟な管理運営及び良質なサービスの提供（再掲） - 個人・団体への表彰制度の充実 - 市民ボランティアのしくみづくり - 体育指導委員会（スポーツの実技の指導などを行う、スポーツ振興法に基づく非常勤公務員）制度の充実
ヒューマン	スポーツやレクリエーション活動を支える人材の育成 - 市民の多様な活動を支える人材の育成、活動の支援 - スポーツボランティア制度の創設	競技スポーツへの支援とその魅力の活用 「京都スポーツの殿堂」事業の推進 - 競技団体やプロ団体への企業支援の促進 - スポーツボランティア制度の創設（再掲）	スポーツを支える組織の人材の確保・育成 - 体育振興会、体育協会への支援 - スポーツボランティア活動への支援